

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
代表者 川原 芳 和修
編集人 西山
電話 050(3538)2346
1部15円 年定価360円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2021/3・1

No.2018

2面

・第70次教育研究全国集会

第25回近畿ブロック青年部交流学習会



近プロ青年部交流学習会の一番の特色は、青年教職員がゼロから自分たちでつくる、青年教職員のための交流学習会である。文部科学省や教育委員会が主催する官制研修ではなく、各単組青年部役員を中心に実行委員会を組織し、2ヶ月に1回の割合で集まり、自ら企画・運営し、ともにアイ

近プロで青年が集まる意義とは？

1月9日、ラッセホールで第25回近畿ブロック青年部交流学習会が開催され、約80人が参加した。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底した上で、一日開催で、参加要請者を青年リーダーに限定し、オンラインを併用しての開催となった。

- 近プロ青年部交流学習会のねらい
- ① 近畿の青年教職員の仲間が集まり、交流する
 - ② 青年部どうしの活動の活性化をはかる
 - ③ 近プロからよりゆたかな青年部活動をつくりだし、全国に発信する
 - ④ 組織拡大・強化をめざし、青年リーダーを育成する
 - ⑤ 2021春闘にむけて日教組青年部運動の意思統一をはかる
 - ⑥ 政策制度要求・実現にむけての意思統一をはかる

近プロ交流学習会は、例年、参加者がともに語り合っている。この理由から、組合活動がひらがり、組織拡大・強化の中心としたそれぞれの青年部運動の活性化や、運動のなかで生まれてきた課題や悩み、職場での課題や教育実践を交流し合うことにも発展させることもできている。

近プロ交流学習会は、例年、参加者がともに語り合っている。この理由から、組合活動がひらがり、組織拡大・強化の中心としたそれぞれの青年部運動の活性化や、運動のなかで生まれてきた課題や悩み、職場での課題や教育実践を交流し合うことにも発展させることもできている。

また、近プロ独自の参加体験型を中心とした集会や学習会のあり方、運営方法などについても議論している。さらに、各単組青年部長だけでなく、青年部役員を中心に複数参加し、交流を深めることで参加者どうしの人間関係のつながりが深まり、組織拡大・強化の中心としたそれぞれの青年部運動の活性化や、運動のなかで生まれてきた課題や悩み、職場での課題や教育実践を交流し合うことにも発展させることもできている。

近プロ交流学習会は、例年、参加者がともに語り合っている。この理由から、組合活動がひらがり、組織拡大・強化の中心としたそれぞれの青年部運動の活性化や、運動のなかで生まれてきた課題や悩み、職場での課題や教育実践を交流し合うことにも発展させることもできている。

近プロ交流学習会は、例年、参加者がともに語り合っている。この理由から、組合活動がひらがり、組織拡大・強化の中心としたそれぞれの青年部運動の活性化や、運動のなかで生まれてきた課題や悩み、職場での課題や教育実践を交流し合うことにも発展させることもできている。

組織強化・拡大をテーマに！

近プロ交流学習会は、例年、参加者がともに語り合っている。この理由から、組合活動がひらがり、組織拡大・強化の中心としたそれぞれの青年部運動の活性化や、運動のなかで生まれてきた課題や悩み、職場での課題や教育実践を交流し合うことにも発展させることもできている。

兵教組顧問(元日教組・前兵教組中央執行委員長) 泉雄一郎さん



教職員の勤務条件の大枠は政治の場で決する。私たちの思いを代弁してくれる議員や私たちの主張をよく理解してくれる知事や市町村長の重要性を理解してほしい。来年度の参議院選挙で、日教組はすでに比例代表候補予定者として、「古賀ちかげ」さんを推薦決定している。これらのとりくみは、後の学校現場を支えていく青年教職員自身への問いかけであり、それが日教組運動や近プロ青年部運動に結集するきっかけでもあっている。

古賀ちかげ



「古賀ちかげさんを応援しています」「水岡さんや那谷屋さんが言っているように、子ども、くらし、平和」

年層の声を大きくなうねりにしていくことが大切である。働き方改革は、その具体化が実感できるものとして前進していけば、組合の存在が身近なものとなり、組合未加入の教職員にも組合の重要性を感じてもらえるのではないか。時間的ゆとりを生み出していくことも組合の見える化につながる。S.K.K.(組織拡大・強化)のため、働き方改革の具体的な推進は重要である。

▲分散会の様子

分散会では、各単組、地域のICT環境や新型コロナウイルス感染症対策について知ることができ、組織拡大・強化にむけて、それぞれの考え方を交流することなど、いろいろな意見を知ることができた。それぞれの地域の組合員として、自分なりの考え方をもち、組合活動をすすめていくことが大切だと感じた。

▲分散会の様子

分散会では、各単組、地域のICT環境や新型コロナウイルス感染症対策について知ることができ、組織拡大・強化にむけて、それぞれの考え方を交流することなど、いろいろな意見を知ることができた。それぞれの地域の組合員として、自分なりの考え方をもち、組合活動をすすめていくことが大切だと感じた。

▲分散会の様子

分散会では、各単組、地域のICT環境や新型コロナウイルス感染症対策について知ることができ、組織拡大・強化にむけて、それぞれの考え方を交流することなど、いろいろな意見を知ることができた。それぞれの地域の組合員として、自分なりの考え方をもち、組合活動をすすめていくことが大切だと感じた。

参加者からの感想

「青年部の先生がもつと自分の思いをぶつけたらいい」という話が一番心に刺さった。これまでの歴史や、その背景を知ることができ、とてもありがたいと思うと同時に、自分たちもつなげていかないとけないなと思った。

「知らない歴史や改めて確認できた内容もあり、今何をすべきか、何を学ぶべきかのヒントとなり、大変有意義な時間となった」

「組合が抱えている課題・職場を離れて、組合の人たちと悩みや考えを共有できるのは、これまでの自分を振り返るいい機会となり必要である」

「各単組、地域のICT環境や新型コロナウイルス感染症対策について知ることができ、組織拡大・強化にむけて、それぞれの考え方を交流することなど、いろいろな意見を知ることができた。それぞれの地域の組合員として、自分なりの考え方をもち、組合活動をすすめていくことが大切だと感じた」

「古賀ちかげさんを応援しています」「水岡さんや那谷屋さんが言っているように、子ども、くらし、平和」

「知らない歴史や改めて確認できた内容もあり、今何をすべきか、何を学ぶべきかのヒントとなり、大変有意義な時間となった」

「組合が抱えている課題・職場を離れて、組合の人たちと悩みや考えを共有できるのは、これまでの自分を振り返るいい機会となり必要である」

「各単組、地域のICT環境や新型コロナウイルス感染症対策について知ることができ、組織拡大・強化にむけて、それぞれの考え方を交流することなど、いろいろな意見を知ることができた。それぞれの地域の組合員として、自分なりの考え方をもち、組合活動をすすめていくことが大切だと感じた」

お正月ファミリーパズル当選者発表

お正月ファミリーパズルにご応募いただき、ありがとうございます。正解者の中から抽選で20人の方に粗品をお送りいたします。パズルの解答とともに、「古賀ちかげさんを応援しています」「水岡さんや那谷屋さんが言っているように、子ども、くらし、平和」

「知らない歴史や改めて確認できた内容もあり、今何をすべきか、何を学ぶべきかのヒントとなり、大変有意義な時間となった」

「組合が抱えている課題・職場を離れて、組合の人たちと悩みや考えを共有できるのは、これまでの自分を振り返るいい機会となり必要である」

当選者の皆さん

國村真(西宮)、木場知香(伊丹)、宮崎奈津子(伊丹)、勝山剛至(宝塚)、堀内幸代(宝塚)、和多田真(明石)、谷山由香里(三木)、田中浩温(三木)、高橋誠司(多西)、増田光(加西)、杉本裕子(姫路)、竹元三奈(赤松)、桑本聡子(赤松)、岸正信(揖保)、寺田久美(揖保)、柏原一夫(豊岡)、西村直美(美方)、田中義晃(多紀)、安倍由貴(洲本)、原友香(南あわじ)

敬称略 (こどもの詩と絵 第40集より) 思い出のランドセル 新温泉町立温泉小学校 5年 福井 琉香

第70次教育研究全国集会

すべての子どもたちのゆたかな学びを保障するインクルーシブな学校づくりを！



▲安田菜津紀さんによる記念講演の様子

第70次教育研究全国集会(全国教研)が1月23日にオンラインで開催され、兵教組からは、176人が参加した。新型コロナウイルス感染症(以下、感染症)の拡大状況をふまえ、全体集会のみの開催となった。はじめに「全国教研70年のあゆみ」を視聴し、1951年の第1回教育研究全国大会から70年にわたる教育活動の歴史と成果をふりかえり、その重要性を再認識するとともに、次世代への継承と分会からの討議を積み上げ、深める組織教研を今後力強くすすめることを確認した。

記念講演では、紛争地域の子どもや東日本大震災の被災地の子どもの実相を、「今生きていること」に寄り添う取材と写真を通して「共感の種を育てる」ことを共有した。

シンポジウムは、「新型コロナウイルス感染症拡大状況と子ども・学校・社会」をテーマに、全国各地をつなぎ、臨時休業中や再開後の状況、厳しい生活環境や不安、あきらまらなくなった課題などを共有した。そして、小学生、中学生、高校生、専門学生、保護者、教職員(井上拓路さん【宝塚】他)、研究者のみならずから、これからの学校・社会のあり様について、それぞれの視点から提言があった。

今次教研は初めてのオンラインで開催されたが、集会を通して、すべての子どもたちのゆたかな学びを保障するため、インクルーシブな学校づくりをさらにすすめることを改めて確認することができた。これから、も全国のなままとともに、平和・人権・環境・共生を柱に、憲法・子どもの権利条約の具現化と民主教育の確立のため、学校現場からの教育実践をさらに積み上げていこう。



▲シンポジウムの様子

●参加者からの感想(一部) 記念講演

・今までの自分のふるまいを振り返り、改善すべき点を多く感じた(神戸)

・自分自身が無関心にならないように、また、そんな子どもを育てないように授業をしていきたい(宝塚)

・改めて子どもたちの安心・安全を守っていかないと感じました。子どもたちは本場の被害者である。未来の子どもたちのために、一つひとつ解決していきたい(三木)

・私たちにとっては当たり前の日々が当たり前ではない子どもがいることを、改めて感じた(加小)

・今回の講演を通して、シェアの情報を知れたことに加え、報道する立場の方の想いについても知ることができ、自分の視野が広がった(多紀)

・紛争地域や被災地の状況を、そこに生きる人々の話を聞き、胸が苦しくなった。無関心にならず、自分に何ができるのか考え続けたい(南あわじ)

・コロナ禍で困っているのは教職員である以前に、子どもたちであることを改めて痛感した。児童の声が教研にあることは意義深いと思った(明石)

・子どもたちの感じていることを理解できてよかった。もっと危機意識を持ち、今後の動きを注視し、教職員がどのような力をつけていけばよいか考え、努力したい(多西)

・現場でも、子どもたちの様子を見るだけでなく、しっかりと聞くことが大切だと感じた(宍粟)

・教職員が思っているよりも子どもたちは考えていることを知り、子どもたちの生の声を聞くことは大切と改めて感じた(水上)

・ITC化のメリットだけでなく危険性も知ることができてよかった(南あわじ)

子どもたちにゆたかな学びを保障する教育実践を

あいさつ(一部抜粋)
日本教職員組合
中央執行委員長
清水 秀行



昨年は、7月の豪雨災害に続き、台風など頻発する自然災害が全国で甚大な被害をもたらした。大規模災害は、いつどこにでも起こりうる危険性がある。年末年始には、各地で何十年ぶりとも言われる大雪に見舞われるなど、人々の命と生活が脅かされる事態も起きている。阪神・淡路大震災から26年が経過し、新潟県中越地震から17年を迎える。そして、東日本大震災・福島原発事故から10年、熊本地震から5年を迎える年となるが、復興への道のり

はいまだ厳しい現実がある。震災を風化させず、防災・減災教育などを引き継ぎ全国ですすめていく必要がある。

感染症に関わる昨年の一斉休業と分散登校、その後の学校再開への対応などにおいて、教職員は常に子どもたちに寄り添い、様々な課題に直面しながらも日々の教育活動をおこなってきた。このような時だからこそ、子どもたちにゆたかな学びを保障する教育実践について、教職員が集まり、現場の状況やとりくみを共有し、議論する場としての教育研究活動が必要である。

今次全国教研では、レポートを持ち寄ったの分科会の展開は断念したが、各学校や地域で積み重ねた実践を、次年度の教育研究活動につなげていこう。

感染症は、日本の社会や経済、就職活動や入試にも深刻な影響を与えている。必要がある。

学校では、教育課程の展開や子どもたちの活動が大きく制限され、「新しい生活様式」のもと、日々の教育活動がおこなわれている。その中で、子どもは我慢を強いられ、心身のストレスや将来への不安を抱えている。私たちは、子どもたちに寄り添い、一緒に考えて、地域や保護者とも連携しながら、失われた学びに代わるとりくみを工夫し、実践していくことが必要である。また、感染症にかかわる偏見・差別、感染者や医療関係者等に対するSNS上での誹謗中傷などが新たな人権課題となっている。私たちは人権が確立された社会をめざし、日教

長期にわたる休業が続く中、「遠隔・オンライン授業」が様々な形で実践された。今後、その「学び」のあり方について実態をふまえて検証していくことが必要である。23年度に達成予定だった「GIGAスクール構想」は、20年度末までに「一人一台端末」の実現がはかられることになった。また、AIやIoTなどデジタル革新の時代を見すえ、プログラミング教育の必修化とともに、ICT環境の整備、先端技術の活用がすすめられている。ゆたかな学びをバックアップする手立てとして活用すべきであり、子どもの思いや考えを出発点とし、子どもを中心に据えた教育研究活動・教育実践につなげていかなければならない。

ゆたかな学びを保障するためには、教材研究や授業準備の時間、子どもの学習状況の把握や支援等、時間的・精神的なゆとりが必要

不可欠である。常態化・深刻化した長時間労働の是正は、ゆたかな学びにも直結した課題である。今国会での法改正により、21年度から順次展開される小学校の35人以下学級をはじめ、教科担任制や持ち授業時数の上限設定など、抜本的な教職員定数改善を引き続きとめていくことが必要である。

教職員自身が力量や専門性を高める教育研究活動は国際的に高く評価されている。平和・人権・環境・共生を基調に、社会的対話をすすめるながら、子どもを中心にすすめた教育研究・授業実践を、よりいっそう充実・発展させていこう。

最後に、今次全国教研に参加されたことを一つの契機として、70年にわたる教育活動の歴史と成果を学び、その重要性を再認識するとともに、若い世代への継承をすすめて、第71次全国教研へとつないでいこう。

持ち家の方も、賃貸の方も、家財契約があるか確認しましょう！

家財の備えも重要です！

たとえば落雷で家電が壊れてしまったら…
※建物には損害がなく、家財のみ損害があった場合

家財契約があると

家財契約がないと

火災共済

住宅災害等給付金付火災共済

自然災害共済

※自然災害共済は単独ではご契約いただけません。火災共済と同口数でのセット契約となります。

契約合計口数 × 1,000円
または
実際の損害額
いずれか少ない額が
支払われます。

補償はありません。

教職員共済

〈資料請求・お問い合わせは〉
教職員共済生活協同組合
兵庫県事業所

〒650-0004
神戸市中央区中山手通4丁目
10-8 ラッセホール4F

電話 (078) 221-9730
FAX (078) 221-1199

掛金のお見積りもWEBでカンタン！
教職員共済
<https://www.kyousyokuin.or.jp/>